

2026年3月4日
株式会社SVPジャパン

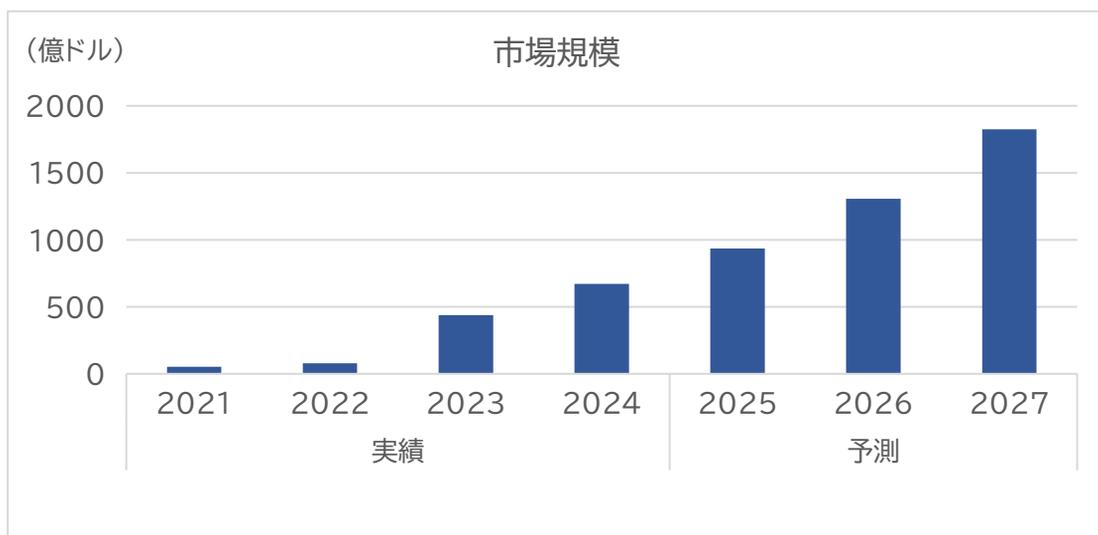
SVP注目市場分析 「生成AI」を公開

～基盤モデルとプラットフォームが再編する生成AI市場の競争環境～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「生成AI-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

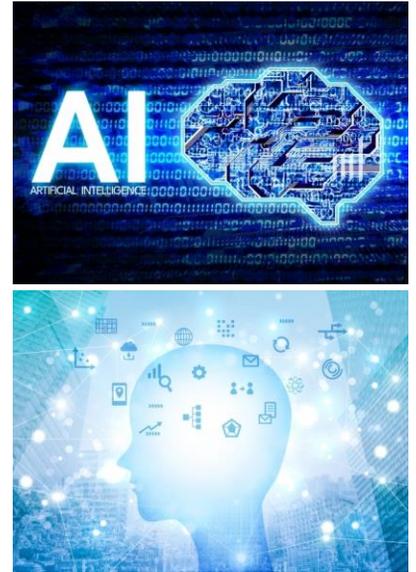
■ 生成AIの世界市場



生成AIとは、テキストや画像、音声、動画、コードなど多様なコンテンツを自動生成する大規模言語モデル（LLM）等を基盤とする先端技術である。2022年末の対話型生成AI公開を契機に急速に社会実装が進み、業務効率化や付加価値創出の手段として企業・行政へと活用が拡大、市場は基盤モデル、クラウドプラットフォーム、アプリケーション、インフラが重層的に結び付く構造で形成されている。世界市場は年率35～45%の高成長が見込まれ、2030年前後には1,000億～1兆ドル規模に達する可能性がある。ソフトウェア・サービスが約6割を占め、今後はビジネス用途の本格導入が成長を牽引する見通しである。加えて、投資や研究開発も急拡大しており、レイトステージ企業への資金集中が進行している点が特徴である。本レポートは、汎用基盤モデルとその提供プラットフォーム市場に焦点を当て、市場定義、競争環境、課題を体系的に整理したものである。

■ 生成AIの市場概況

生成AI市場は、用途別には競争が広がる一方で、基盤モデルおよびプラットフォーム層では主要プレイヤーへの集中が進む構造にある。エンタープライズ向けLLMサービスでは、2023年末時点でOpenAIが約半数のシェアを占めていたが、その後は競争激化によりシェアが分散し、2025年にはAnthropicを含む複数社が拮抗する構図へ移行している。特にAnthropicは安全性重視の設計思想とB2B中心戦略を背景に企業向け支出シェアを拡大し、存在感を高めている。一方、クラウド事業者は基盤モデル提供とインフラを一体化することで市場の過半を押さえ、導入先の集約を通じて高い集中度を維持している。GPUを中核とする計算資源市場も寡占的であり、上流のインフラ優位が中流のモデル競争力を左右する非対称な競争環境が形成されている。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

4月のテーマは「ローカルLLM」と「NPU」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com